

第2章

Visual Studio × 専用キット WDK! テンプレートでできるだけ簡単にサクッ!

Windows 10 時代の デバドラ開発環境入門

日高 亜友

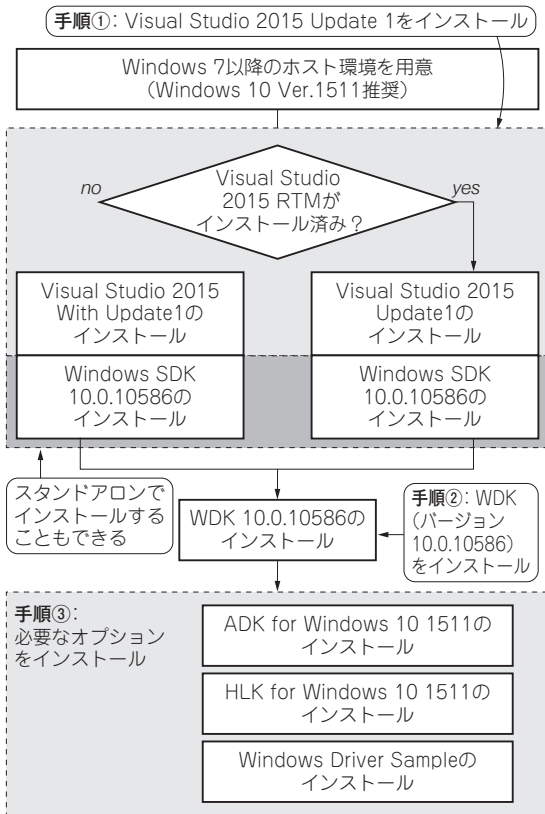


図1 Windowsドライバ開発環境のインストール手順
Visual Studio 2015 Update 1を先にインストールする。WDKはバージョン10.0.10586をインストールする

本章ではWindowsデバイス・ドライバ(以降ドライバ)開発用ツールを使用して、ドライバ開発を行う手順を紹介します。

簡略化したドライバ開発環境のインストール手順を図1に示します。重要なことは、Visual Studio 2015 Update 1を先にインストールし、WDKはバージョン10.0.10586をインストールするということです。

本章執筆時点では、Windows 10はバージョン1511版^{注1}が、Visual Studio 2015はUpdate 1が最新です。

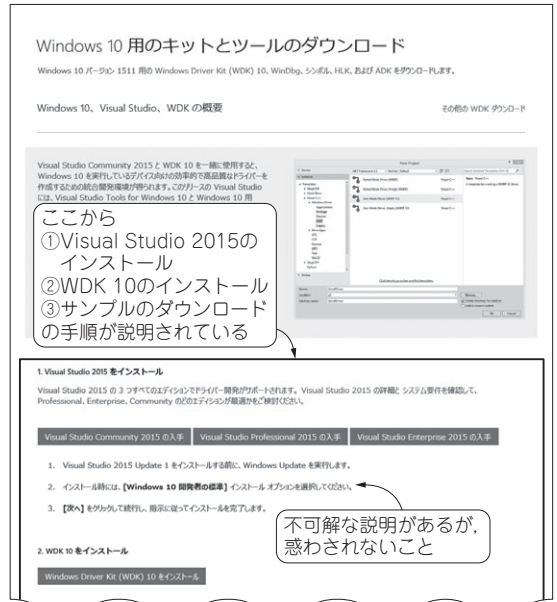


図2 「Windows 10用のキットとツールのダウンロード」のページの記述に従って環境を構築する
<https://msdn.microsoft.com/ja-jp/windows/hardware/dn913721.aspx>

「Windows 10用のキットとツールのダウンロード」のページ(図2)の記述に従って1511版対応の環境を構築して利用していきます。

1511版対応といっても、前章で説明した通り、ビルド10240版以降の全てのWindows 10とWindows 7、Windows 8、Windows 8.1の環境とターゲットに対応しています。基本的にはこのページの記述に従ってインストールを行えばよいのですが、かなり分かりにくい点があるため、以降に補足しながら解説します。

注1: 開発コードネームThreshold 2またはTH2。2015年11月のリリースのため1511版と呼ばれる。ビルド番号は10586。Windowsのバージョン10.0、ビルド10586のことを、まとめて10.0.10586と記載する場合がある。